

## はしがき

数年前、民法のわかりやすい入門書を希望する要請に応じて、『民法入門の入門1（財産編）』という書物を出版した。その読者から、その続編として、家族編を出してほしいという要望があり、それに応えて、今回この企画を検討した。かくして、この分野の研究者で大学・大学院にて民法の教育に携わっている先生方に執筆を依頼したところ、編者の意図を理解していただき、快諾をいただいて、実現によりやくこぎつけた。全体としてまとまりが必要であるために、作成の過程において、常に編者と執筆者とは連絡を密に取りつつ完成することができた。

民法のなかでは、家族法すなわち、親族・相続編の分野は、個人にとって非常に身近な分野であり、学習上、親しみをもって学習していただけると思われる。ただ、自分のもっている常識をいちおう横に置いて、謙虚に法律的な思考方法を学んでいただきたい。いわゆる社会常識と必ずしも一致しているところばかりではないことを知るであろう。その誤差も学習課題として受け止めていただきたい。

この書物をマスターした後に、つぎのステップである中級書へ進んでいただくことを希望する。

最後に、本書の作成に加わっていただいた執筆者の先生および繁雑な編集事務に携わっていただいた法律文化社の秋山泰社長と編集部の方舟木和久氏に感謝を申し上げたい。

2007年11月20日

編 者